

みつくら

平成30年11月15日 第278号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

14年の歳月を懸けて新花巻駅開業

11月4日に生涯学習・生涯スポーツ推進委員会主催の「ネクタイを締めた百姓一揆」が大瀬川振興センターで上映された。この映画は昭和46年に決定した東北新幹線の停車駅に花巻が外された事に憤慨した市民有志が立ち上がり新花巻駅を設置すべく14年に亘り国や国鉄への働き掛けを「一揆」に例えた映画である。新花巻駅は民意による請願駅の第1号となった

平成24年からすべて素人が作成に関わり28年に完成した2時間55分の大作。当日は地区内外から39名が観賞した。上映前、誘致運動の市民会議長の小原甚之助さんのお孫さんにあたる小原良猛さんと畠山勝敏委員長の対談の中で、製作費が懸かりすぎて、エキストラ分の食費を安くするために米の持ちだしがあったなどの話があった。上映の際、天窓からの光で見づらかったり、休憩後にはプロジェクターが動かなくなったり少々アクシデントがあったものの、最後まで無事に上映でき、南部百姓の意気込みをマザマザと見せ付ける映画だった。またこの日は、在京石鳥谷町人会の30周年記念総会が上野の精養軒で行なわれるため、町内の多くの人が新花巻駅を利用したものと思われる。今、東京への日帰りが出来るのも新花巻駅が有ればこそと感じた。

一斉草刈りに約一千万円

葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長)の平成30年度畦畔一斉草刈りの日当支払は去る10月27日に行われ約一千万円の日当が支払われた。板垣会長は「今年度は、予算の逼迫(ひっばく)もあり、10日間早めて終了した皆さんの協力に感謝しています」と語られた。

9区でも防災研修会を開催

11月3日、石鳥谷第9区自主防災会(熊谷 惇会長)では、「防災研修会」を9区自治公民館で39名が参加して開催された。講師には今年も花巻北消防署員8名をお願いし、大瀬川地区防災訓練以外の内容を2部構成で行った。

第1部の講演会では自主防災組織の必要性を含め、災害時の避難情報と活用方法について、また、非常用持ち出し品の備えが必要と話された。そのほか「10年前に推奨されて設置した火災報知器の対応年数による誤作動が出ており、更新(電池交換等)をお願いしたい」とあった。

第2部は、和室に発煙装置で煙を充満させて避難訓練を行った後、駐車場に敷いたシートに寝かされた人形を使ってのADE(今年3月に大瀬川活性化会議から貸与された)の操作説明と模擬操作を行った。一方、この頃から消防署員の無線が頻繁に鳴り響き、署員に早池峰登山者の救護出動命令が出たため、訓練は予定時間を早め終了となった。このADE装置は、装着パッドが2年・バッテリーは4年毎に交換となっており、適切な保守管理を防災会に求められる事となる。

板垣寛さんの出版で祝賀会

板垣寛氏「続・賢治先生と石鳥谷町の人々」出版を祝う会主催の出版祝賀会(板垣弘清発起人代表)は、10月27日に上田花巻市長や佐々木県議会議長をはじめ、113名が出席して石鳥谷生涯学習会館で開かれた。

板垣弘清発起人代表は「板垣寛さんは、今から20年前の平成10年に『賢治先生と石鳥谷の人々』を出版されました。その本は、賢治の期待の星として信頼され、石鳥谷町に肥料相談所を開設することに努力した菊池信一さんの短い生涯についてや、その肥料相談所で賢治が『陸羽132号』の作付けを奨めたいきさつ、更には短歌『葛丸歌碑建立』についてなどが書かれておりました。今回の出版はその続編にあたるもので、この本を紐解いていただければわかりますが、板垣さんは、とにかく賢治と石鳥谷地域との関わりが、歴史的にどんな経過を辿って来たかという事を、長年にわたってあらゆる角度から考察してきた一人であります」と挨拶された。

続いて上田花巻市長や、佐々木順一県議会議長など4人から祝辞をいただいた。花束を贈られた後に板垣寛さんは「私のために、このように祝う会をしていただき、感謝にたえません。これからも精進して歩んでいきたいとおもいます」と謝辞を述べられた。

熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長の乾杯のあと、大島丈志文教大准教授、岩田安正宮澤賢治記念会理事、藤井茂新渡戸基金理事長、瀬川正子NPO法人ポラーノの広場代表などからスピーチを頂き、それぞれ賢治や板垣寛さんとの関わりが紹介された。

アトラクションはエコーくずまるの皆さん9名で葛丸讃歌、たろし滝讃歌、大瀬川讃歌、やまなし讃歌の何れも板垣寛さんが作詞した歌が披露された。

狸がコンバインに巻き上げられる

コンバインで稲刈り中に、狸がコンバインに巻き込まれる事態が大瀬川で起こった。幸い命には別状無く、逃げ去ったという。ことは、10月10日の出来事。菅原巖さんが運転するコ

ンバインが、畦岸からぐるぐると刈り取って真ん中辺に縮小し小さくなってきた頃、突然大きな狸が稲と共に巻き上げられ、脱穀胴に入る寸前で田んぼに跳ね飛ばされた。

咄嗟の事で驚いたが、そのまま一目散に逃げた狸を見てほっとしたという。狸も狸、あの程大きなコンバインの音なのだから稲刈りの外側に逃げれば良いものを、でんでん虫の様に内側に逃げたためこんな事になったのだろう。狸もビックリしただろうが、もっとビックリしたのは菅原さんだったのではなかったか。

天満宮で賽銭被害

去る10月26日午後3時頃、管理者の畠山正さんが天満宮拝殿北側のガラス戸が割られ何者かが侵入した形跡を発見、同じ責任役員の熊谷安久・畠山勝榮さんと協議の結果、花巻警察署へ通報、石鳥谷交番・花巻警察署刑事課から5名で鑑識作業を行い7時頃終了した。定かではないが、例大祭後からなので賽銭はすくなかったと思われる。

ただ、サッシ戸のガラス交換に8,000円ほどの費用が発生してしまった。今後は、山祇神社も同じようなガラス戸なので防犯設備の強化が望まれる。

東京で大瀬川のやまなしを使い授業

「10月10日の国語の授業で『やまなし』をするが、急いでやまなしを送って欲しい。」と板垣聡美永福小学校(東京都杉並区)教務主任から7日に父の板垣弘清さんに電話があった。当日に電話を受けた板垣さん夫婦は、石鳥谷賢治の会の了解を得てやまなしの実(枝毎も含めて)100ヶほどをもち取り、翌日に送ったという。

このやまなしは、賢治が数回通った時に金鑄神社にあるやまなしの実を育てた「やまなし園」のもの。

学校の先生達は初めて見たやまなしに驚き、管理職や図書館司書も「食べてみて良い?」「一個貰って良い?」などと評判だったという。

板垣聡美さんからは、「このやまなしを幾つかの学校の研究室に持って行ったが、そこでも大歓迎でした」とメールが届いた。

銀杏の木をライトアップ

今年の3月に開催された「大瀬川の未来」についてのワークショップの中で、大瀬川運動公園内の銀杏の木にライトアップのアイデアが出たので、今回、黄色くなり始めた銀杏の木へライトの位置を変えながら、葉が落ちる11月半ばまでライトアップを行っている。

日に日に黄色が多くなってくると、遠くから見れば綺麗に浮かんで見えている。皆さんからの評判が良ければ、春先には公園内の桜の木にもと考えてるので、ご意見をお待ちしている。

みつくら

平成30年11月15日 第278号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

板垣三保子さんの講話で戦争を語り継ぐ

第55回大瀬川歴史探訪講座は、10月29日に24名が出席して大瀬川振興センターで開かれた。この日のテーマは「義父の『汗の軍隊手帳』」で、講師の板垣三保子さんから義父から聞いていた戦争について話された。講座では、参加者がそれぞれ体験談や、身内の戦没者の事などを語り合い、またとない機会となった。

「汗の軍隊手帳」は、板垣種善さんが亡くなる2年前に出版した本で、「あとがき」には「戦争経験を持つ人たちが年々少なくなっています(平成5年時)。今ではとても想像もつかない艱難辛苦の経験で、国を想い、家族を想い、生死の間は紙一重の差もない戦場で、青春の全知全霊を叩きつけてきた人達が、昭和20年8月、国が破れ、価値観の大きな変転に右往左往して、グウの音も出なかった兵隊経験の人達、肩身の狭いおもいをしながら必死になって自分を取り戻そうとしたのではなかったでしょうか。

私も、すっかり失念していましたが、軍隊手帳が私の若かり頃の思い出を次々に写し出し、教えてくれました。戦いの中で、沢山の方々と交流がありましたから、この簡単な記録を時と場所と、そして思い出、生きている記録に膨らませて戴けたら幸いと想います。1993年8月」とあった。今回の講座は、その「膨らませて、語り継ぐ」という願いに、一役かったのではなかったか。

男子バレーチーム連続優勝!

去る、10月28日町体育館において、第45回石鳥谷9人制バレーボール大会が開催された。開会式では昨度優勝した我が大瀬川チーム代表の板垣拓海さんが選手宣誓を行った。

今年も、練習を1カ月半(6回)も積み重ねての挑戦で昨年引き続き優勝の(今回で8回目)となった。主催者の挨拶では、3・4年前から若手の参加者が多くなっており喜ばしいと語っていた中で、我が大瀬川チームも昨年参加の若手の板垣拓海さんと初参加の板垣圭助さんの大活躍と先輩

の試合運びが連携しての連勝となった。参加メンバーは、菅原幸福、板垣雄一・春介・圭助親子、菅原茂・板垣幸規、板垣伸吾・柳原紘樹、藤原誠・板垣拓海の皆さんで御苦労さまでした。また、今年も女子は残念ながら不参加となった。

平成30年度大瀬川地区合同防災訓練

去る10月28日 午前9時30分に防災無線とラジオそして、携帯電話にアラートとエリアメールが届き、これを合図に7・8・9区の合同防災訓練を開始した。

この訓練は、各振興センター単位で行っており、今回は当大瀬川地区が対象で大雨による洪水と土砂災害で葛丸川の氾濫の恐れがあると想定して2部構成で行った。

1部の情報伝達訓練では、安否確認を無線と伝達で行った後、7区は千鳥苑から、9区は自治公民館から緊急避難所となっている大瀬川振興センターに避難した。避難所では、介護施設ケアハウス「千鳥苑」からの避難者を含め、徒歩や車で避難した住民70名の安否確認を行った。

2部では、石鳥谷赤十字奉仕団と同町婦人消防協力隊による炊き出し訓練、花巻中央・花巻北消防署による応急救護と消火訓練、岩手中部水道企業団の協力による給水訓練を行った。

給水車は4tの飲料水を積み、東北各地へ派遣されている。6Lの飲料水が入るリュックサック式の透明な容器があることも初めて知った。センター内では、近年多発している土砂災害の恐怖や備えについて県南広域振興センターの方が解説した。

この合同防災訓練は大瀬川地区自主防災連絡協議会が発足して初めての訓練となったが、今まで一度も鳴らした事が無い振興センターのサイレンを11時に鳴らした結果、地域内で周知するには音量が低い事が確認され今後の課題となった。また、この訓練には来年度実施予定の八日市地区の防災関係者10名も参加された。幸い今のところ当地区は大きな災害に見舞われていないが、改めて防災訓練の必要性を感じた半日となった。

立ち入り測定の同意率はほぼ100%

大瀬川地区の農業基盤整備が農林水産省へ申請する段階に差し掛かっている。それに伴い、測定の立ち入りに対する同意のとりまとめを8月から行っていたが、その結果がこの程まとまり、同意率はほぼ100%であった。「ほぼ」の理由は不在者が若干いたからという。

今後は、花巻市や北上農村整備センターを経由して、10月末には岩手県で県内の基盤整備審査を行い、来年度実施予定が決定となる。当地区基盤整備推進委員会でも、来年の6月頃をめどに大瀬川地区の営農ビジョン作成を検討し、いつでも対応できるように計画している。

後継者が少なくなって久しい「大瀬川の農業」の今後が注目されている。

表 彰 (敬称略)

花巻市老人クラブ連合会長表彰 熊谷 良悦

7区は餅つき、8区は釜飯で農協まつり

花巻農協祭りは、10月20~21日に大勢の買い物客や観覧者で賑わいをみせた。大瀬川からは7区農家組合の餅つきと、8区農家組合の釜炊き名人が腕を振った。

餅つき大会は52の農家組合が参加し、7区農家組合では与えられた一升のむし米で、畠山義弘組合長、菅原教雄、茂子副組合長夫妻、菅原晃浩会計と新山家の菅原瑠生(るい)さん、菅原瑠香(るか・何れも石小4年生)が携わった。畠山さんは「蒸してから搗(つ)くまでの時間が有ったので、少し冷めてしまい、潰れにくかった」と話していた。

一方の「釜炊き名人」では、51の農家組合が参加した。8区農家組合では、板垣幸夫・福子組合長夫妻、細川文子さん、板垣幸子さん、菅原純一さんの5人が釜炊きをした。

釜にはそれぞれ名前が付けられ、8区は「松茸ごはん」。11時に一斉に火が炊かれ、11時半から振る舞い始めたが、松茸ご飯は大人気で、火を付けた時点での行列は既に40人。振る舞い始めた頃には67人が並んでいた。

ある釜の前での会話が聞こえてきた。「松茸ご飯に並ばない?」すると相手は「もう、松茸ご飯が無くなる程並んでいるので無理」

板垣組合長は「最初は少し盛りが多かったので、その後は少なくて47人に食べて頂きました」と話していた。

人 事 (敬称略)

花巻市石鳥谷地域協議会委員 熊谷 秀夫
 板垣 武美

9区で恒例の庭払い

11月3日は、晴れの特異日となっているといわれているが、今年も秋晴れの良い日に9区では、地元住民が集まって9区自治公民館(高橋昭一館長)主催の収穫感謝祭「庭払い」が43名が参加して開催された。

高橋館長の挨拶で、「今年も、出穂期の天候不順があったが、一等米比率99.3%の作況指数101と報道され、皆さんも平年並みを感じていると思います。ただ、日本全体を見ると自然災害が増え、当地区もいつ起こるか不安を感じている。前段で行った防災研修会も皆さんの協力を持って継続をお願いしたい。まずは、今年の収穫に感謝して楽しい時間を過ごして頂きたい」と挨拶があった。菅原敬夫第一老人クラブ会長の乾杯で始まり、役員と奥様手作りの芋の子汁や取返し料理を楽しみながら、話に花が咲いた。

ちなみに9区では、公民館主催で、新年会(1月)・総会(3月)・さなぶり(6月)・庭払い(11月)の4回を開催して、親睦を深めている。また、11月中には班祝いと銘打った、班長主催による来年度の各種役員を決め確認する行事がある。この行事は、酒屋稼ぎが盛んな頃の名残で春先では遅くなるためだったと思われる。

みつくら

平成30年11月15日 第278号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

高橋君やエコーくずまるが出演し賢治葛丸祭

大瀬川からも多くの会員を擁している石鳥谷賢治の会主催で大瀬川活性化会議後援の第23回賢治葛丸祭は、秋晴れの幸運に恵まれた10月8日に葛丸湖畔で130名が参加して開かれた。

岩手日報や岩手日日新聞によると、八日市鹿踊りで開幕した賢治葛丸祭は、上田花巻市長、佐々木県議長、町内各中学校長など来賓21名が招かれ、石鳥谷吟詠会の賢治に関する吟詠、初めての野外無言劇は八幡小学校の児童たちに、たくさんの拍手が送られていた。賢治さんへの手紙では、石鳥谷小学校6年の高橋佳汰君（桶屋家）を初め合わせて6名が披露した。

高橋君は「注文の多い料理店」を読んで「一番心に残ったのは、最後の方で死んだはずの犬が助けに来るところです」と発表され「その犬は、山の深さにおどろき、泡を吹いて倒れたのですが、山歩きが好きだった賢治さん体験からだと思えます」と結ばれた。また、「宮澤賢治の歌」ではエコーくずまるの皆さん8名がもみじ、旅愁、葛丸、ポラーノの広場の歌、葛丸讃歌を披露した。当日は飛び入り参加で、八幡出身の吉田路子さん（広島県呉市在住）が「雨ニモ負ケズ」を朗読披露した。

吉田さんは切り絵作家であるが、一方で賢治精神を広島県を始め、全国に出かけては講演している方でもあった。千葉石鳥谷小学校長の所感は、「どの児童、生徒、学生も宮澤賢治の作品を良く読んでいて、自分と置き換えての発表は立派でした」と述べられた。

紅葉の中でグランドゴルフと芋の子会

大瀬川中央長寿会（菅原靖夫会長）では11月5日に金矢温泉で恒例の芋の子会が行われ22名が参加した。迎えるマイクロバスを降り、花巻広域公園の運動広場で5チームに分かれ、グランドゴルフ8ホールを2ラウンド楽しんだ。辺りは紅葉真っ盛りで晴天の空に飛行機雲が綺麗に線を引いていた。

12時前には、金矢温泉ホテル銀河パークはなまきに移動して芋の子会となった。ホテルは平日なのに各種団体が非常に混んでいて人が溢れていた。会食には少し早いのでお風呂に入る人もいて、予定時間の芋の子会となった。

菅原会長から「今年も多くのご参加を頂いて有りがたい。元気に運動もしたし、これからは賑やかに懇親を深めて楽しい時間を過ごして頂きたい。13日には西部地区の軽スポーツ大会もあるので丁度良い練習になった」と話された。乾杯の後にグランドゴルフの成績発表があり優勝は板垣美智子さん（中谷地）で一昨年も優勝していた。ホテルの支配人からも賞品が贈られた。懇親会はカラオケで踊りやダンスも出て楽しいひと時となった。

くずまる大学が御所野遺跡を訪ねる

くずまる大学自治会（菅原敬夫会長）と大瀬川活性化会議主催の平成30年度くずまる大学移動研修会は、10月31日に24名が参加して二戸市にある御所野縄文公園を見学した。

菅原会長は「くずまる大学の事業には、いつも皆さん方から御世話になっており感謝しています。また今回の移動研修にも、このようにたくさんの方々に参加していただき有り難うございます。幸い、今朝方までの大雨も止んだとは言え、まだ心配ですが今日の一日を有意義にして頂きたいと思えます」と挨拶された。

ガイドの説明によると「御所野遺跡は、馬淵川など三つの川に挟まれた大地に、2500年前の縄文時代の縦穴住居跡が多く見つかり、中でも、従来の定説を覆す事実が発見された。それは、屋根は茅葺きではなく、栗の木の樹皮を使って葺き、その上に土を盛った日本で初めての発見だった」とのことであった。御所野遺跡を含む『北海道・北東北の縄文遺跡群』はユネスコの世界文化遺産登録を目指している。

高橋さんの自然農法を見学

盛岡市の高橋好徳（三蔵家）さんが実践している自然農法を9月23日に3人で見学した。

高橋さんは日本専売公社に勤めていた20年前に自然農法に関心を持ち、少しずつ栽培面積を増やしてきたと言う。自然農法とは、肥料も農薬も、また堆肥も殆ど使わない農法で、全国に数多く有るが、高橋さんもその一人。有機（栽培）農法との違いは堆肥を使うか使わないかの違いなそうである。高橋さんは堆肥の中でも動物性の堆肥（牛糞、豚糞、鶏糞、魚かすなど）ではなく、植物性の堆肥は使っていると話していた。

姫神山近くで栽培している水稻や大豆、蕎麦などを見せていただいた感心したのは、いずれも立派な作物であった事。「自然農法を始めた頃は、栽培のコツが分からず散々であったが、現在では自然農法としては並作ではないかと思えます」と話していた。高橋さんは、大瀬川の地でも自家米として「ささしぐれ」を種籾用として「亀の尾」「かくやもち」などの水稻を栽培し、自然乾燥で11月に収穫した。

菅野さんが「じゃじゃじゃTV」に出演

10月13日午前9時半からの岩手放送（IBC）テレビ「じゃじゃじゃTV」番組で、菅野裕二さんが出演し県内に放映された。この日の番組は「盛岡産業祭り」を特集したもので、その中の「岩谷堂筆筍」のコーナーであった。

菅野さんは、現在岩谷堂筆筍を製作している老舗メーカーの「中千家具製作所」の常務取締役で活躍されていて盛岡手づくり村に勤務しており、このほど開かれた大瀬川文化祭にも「葉筆筍」を出展していた。

中千家具製作所の本社は、奥州市江刺区にあり、工房は盛岡市繫の「盛岡手づくり村」にもあって、見学者に見せながら岩谷堂筆筍を製作している。

この日の菅野さんは、IBCの川島有貴アナウンサーと共に自社の岩谷堂筆筍について解説していた。菅野さんは「伝統を守りながらの岩谷堂筆筍は、和風本来のものであるのでそれらを基本に、現在はそれに洋風も加えた製品も開発して販売しています」と話していた。

ところで、大瀬川の私たちも使っている「じゃじゃじゃ」とは、驚いたり感動した時に使う花巻弁の感嘆詞で、「じゃ」「じゃじゃ」「じゃじゃじゃ」（ジャッジャッジャッ）のように、「じゃ」を単位としてその繰り返しに比例し、驚きの度合いを示す南部藩独特の方言で、その単位となるのは「じゃ」以外にも「じゃい」「ざい」「じえあ」「じえあー」「じえや」「じえ」「ぢえ」があるというから面白い。

12地割でドローンの実演会

去る11月4日に熊谷静治さんの圃場でドローンによる農薬散布の実演会が約60名の見物者に実演会が行われた。このドローンを使っの農薬散布は、今年の夏に菅原榮一さんが大瀬川で初めて実施したことは「みつくら」で紹介したばかりでもある。

主催したのは、（株）トップクルー花巻営業所（花巻市大通り1-3-5）で、使ったドローンの機種は「AGRAS MG-1」。機体は、直径1,5m、重さ10kg。それに10リットルの薬剤を積んで散布していた。地上から3m（稲穂から2m）の高さから散布した航路は、手元の操作パネルに写し出されて、散布漏れがあるヶ所が一目で分かるようになっていた。熊谷静治さんは「1町歩の散布が約10分で終了し、重労働から解放され、更に1反歩当たりの散布料金は1千円（薬剤費は別途）と割安なので便利になったと思えます」と話していた。

事務室 お気軽にお入り下さい

「戦没兵士と家族の物語」企画展の中で、戦死した事も知らずに、妻が「なして（何で）返事をくれないの」と夫に宛てた手紙が心に響いた。展示中の63通の手紙の中で、「戦争とは何か」を大瀬川の方々に、少しでも伝わればとの思いが絶えない。